

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第30号

2012年 11月18日

*** 目次 ***

1. 新規就農特集（就農者、市）
2. 実行委員紹介
3. 部会紹介（販路、援ホ）
4. 援農ボラアンケート
5. イベントの活動状況
6. 農産物直売所マップ
7. 農産物の放射性物質検査について
8. イベント予定
9. 編集後記



養成講座開講式

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫
住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4
Tel. 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771
E-mail abikochisananchisyokyo@sky.plala.or.jp
URL <http://www15.plala.or.jp/chisan/>

1. 新規就農特集

1) 新規就農者紹介

・我孫子市で新規就農者の方が9経営体[個人とグループ(団体)]で14名居ります、地産地消協議会に所属の方は5名です今回は次の方を紹介します。

石原克人氏

○自己紹介

- ①年齢 64歳
- ②就農年数 1年8カ月
- ③農地場所 我孫子市日秀
- ④主な作物 キャベツ・白菜・レタス・人参・ピーマン
なす・キュウリ・オクラ・タマネギ
エンドウ・ジャガイモ



○就農者インタビュー

- ①就農を始めた動機は ・定年後の時間の過ごし方として、健康面で子供達に迷惑がかからない及び一生働けることから農業を選びました。
- ②家族の方の反応は如何でしたか ・定年前から計画してその話をしていたので反応はお好きなようにどうぞでした。今は一緒に手伝ってもらっていますが、強制はしていません。
- ③最初の壁はありましたか又その壁は何ですか? ・まだ経験未熟＝農家さんの見まねですから壁がどこにあるか判りません(まだまだ周囲が見えていないということです)。
- ④これからの抱負 ・直売所に1年半余り野菜を下していると、顧客が求めていて他の農家さんと競合しないものが次第に分かってきたので、これを問題少なく作ることが出来る生産技術の腕をあげて行きたいと思っています。

高木博之氏

○自己紹介

- ①年齢 63歳
- ②就農年数 約半年
- ③農地場所 我孫子市新木
- ④主な作物 路地栽培による季節の野菜全般
(これからは小松菜、春菊、ブロッコリー
キャベツ、コカブ、葱など)



○就農者インタビュー

- ①就農は始めた動機 ・これからの長い人生。終の棲家である地域社会に根ざしつつ、自立した生き甲斐のある日々を送るには定年のない農業が最適と判断。
- ②家族の方の反応は如何でしたか ・消極的な賛成かな(「私(妻)を頼りにしないで。」)
- ③最初の壁はありましたか又その壁はなんですか? ・いろいろな壁がありました。とりわけ、作付け開始1ヶ月にして見舞われた台風は最大の試練でした。農作物の被害もさることながら、営農の先行きに対する不安等精神的にもかなりショックでした。
- ④これからの抱負 ・教育、医療、高齢者等他の分野の諸問題について、農業の持つ力を活用する余地は大いにあるとおもいます。その潜在的可能性にチャレンジできれば。

2) 我孫子市での新規就農について・・・農政課

“現在14人（個人とグループ）の方が我孫子市で農業を始め頑張っています！！”

我孫子市の農業は、農業従事者の高齢化や担い手不足によって、農家が急速に減少し、農地として利用されずに放棄されている農地が増えています。そのため、市では、新たに農業を始める人を増やために、農業を学ぶ機会を設け、農家になるための相談を受けるなど、農地を守る努力をしています。

しかし、新しく農業を始めるには、何をしたら良いのかよくわからない。農地の確保・資金の調達・栽培技術の習得など課題は山積みです。そこで、新規就農をお手伝いするために、市では以下の支援を行っています。

☆市の主な支援策☆

	支援項目	補助期限	補助金額
1	農地の斡旋	随時	—
2	農地の賃借料の補助	3年間	10万円上限/1年
3	農業研修農家先の斡旋	最長2年間	—
4	農業機材、設備など整備費の補助	3年間	20万円上限/3年
5	就農に関する研修費（経費）の補助	3年間	10万円上限/3年
6	就農するまでの実践農場の提供	最長2年間	—

※その他就農相談は、随時行っています。

☆国の支援策（新規就農総合支援事業実施要綱）の活用

	支援項目	補助期限	補助金額
1	経営開始型	最長5年	150万円/1年
2	準備型	最長2年	150万円/1年

45歳未満で新たに農業を始めた場合、「青年就農給付金」の給付対象となります。

2. 実行委員紹介

※=部会長

24年11月現在

部 会 名	氏 名
エコ農産物普及推進部会	※鈴木順一、高木博之、吉田和子
販路拡大・食育交流部会	※米澤外喜夫、八澤静江、玉造美枝、古川恵子、岡田大陸、岩井 康
援農ボランティア部会 (拡大実行委員会)	※宮本 豊、坂西 貢、白澤幸雄、植木康雄、村山 勉、斎藤佳代子 (中野 栄、鈴木順一、古川鉄夫)
学校給食支援部会 (コーディネーター)	※須藤一宏、山田 豊、宮本 豊、村山 勉、山崎 甫、島 清 山原祐吉、宮川 修 (山口文俊)
広報部会	※天谷幸生、若王子範文、川田悦代、田辺裕子、植木康雄
総務部会	※白澤幸雄、吉田和子、遠藤五郎
事務局	伊吹 宏

3. 部会紹介

1. 販路拡大・食育交流部会 の活動紹介

当部会は、生産者である農家と消費者である市民との交流を推進し、農家への理解を深めてもらうと共に食への関心を高めてもらい人と人との絆を強くすることを目的に活動をしております。

「販路拡大」というよりも、地元野菜の良さ/おいしさをより理解してもらい地元野菜の「地消」を推進すべく活動をしております。

メンバーは、米澤外喜夫部会長以下実行委員5名、総勢6名です。具体的活動としては、料理教室を年2回、新鮮野菜の収穫体験/試食会を年2回、各地区のお祭りでの新鮮野菜直売会を年3回、主催しております。

この他にも、協議会主催の新年餅つき大会のサポート、加工部会主催の漬物教室/味噌造り教室のサポートを行っております。

現在 活動範囲をもっと広げたいと思っておりますが、その為にはもっと多くのメンバーが必要で、是非協議会メンバー皆様の当部会への積極参加をお願い致します。

以上（記/岡田大陸）



カップまつり販売活動

2. 援農ボランティア部会紹介

宮本部会長以下実行委員5名と64名の部会員に加え、10月に「ボランティア養成講座」を修了した8名を加えて78名の大所帯となった援農ボランティア部会の活動をご紹介します。

〔主な活動〕

- ①農家の人手不足支援 部会のメイン活動で毎週（日・月・水・土）4回、支援希望農家にボランティア派遣による希望表・実施表の配布手配。
- ②実行委員会 毎月及び年2回農家委員実行3名を交えて活動内容の検討。
- ③養成講座 援農ボランティア部会員の養成（本年は9期生）
- ④行事参加 地産地消協議会その他団体行事支援のボランティア参加。

〔課題〕

- ①高齢化 発足10年を経過しボランティア・農家共に高齢化し会員のボランティア回数の減少している。
 - ②新規加入者の減少 養成講座の応募者が減少し、応募方法等の長期対策が必要されている
- ・以上の発足当初からの状況変化に対応するため、養成講座受講生・援農部活動新規加入者の増員、日常の支援方法等の検討を部会内では議論をし努力しています。協議会員皆様のご意見等のご協力をお願いいたします。又援農部会への新規・再登録をお待ちしております。

以上（記/宮本 豊）



後方左より村山さん、坂西さん、植木さん
前方左より斎藤さん、宮本さん、白澤さん

4. 援農ボランティアアンケート

援農ボランティア活動アンケート（24. 7.28 情報交換会 ）

「会員各位に今後のボランティア活動についてご意見(11人が回答)をいただきました。下記の通りご報告申し上げます。今後、指摘、提案のあった項目については、実行委員会で議論して参ります。ご協力ありがとうございました。」(尚、アンケート概要は援農ボラ通信 12号〈24.9.20発行〉に掲載済です)

1. 援農ボランティアの応募者が減少傾向にある事についてどう考えますか。
 - ①以前より援農参加が少ない人に意見を聞くのが近道
 - ②「お手伝い」だけでは、アピールになりにくい
 - ③減農薬・無農薬農業という最初のテーマを大切にしながら、アピールできるのでは？
 - ④原因の予測は出来ない、時代の流れでは、ボランティアに対する意識が変化しているのでは？
 - ⑤いい時もあれば悪い時もある。どうこう無いです、100人もいます、気楽に！
 - ⑥参加者の高齢化
 - ⑦農作業への関心の低下、農作業がきつい
 - ⑧ボランティア活動の継続には魅力作りが大切
 - ⑨3.11 震災の放射能影響で土いじりに抵抗があるのでは
 - ⑩一時のブームが去った事も要因か

2. 援農ボランティアを募集するいい方法はありませんか。(現在の方法以外)
 - ①市内の学校・幼稚園で募集し、先生や父兄を勧誘・・・学校の教材に取り上げてもらう
 - ②市内に拠点をおく企業人を勧誘
 - ③あびこんのリストや野菜に貼るシールに、ボランティア募集広告を載せる
 - ④我孫子在住の外国人・留学生を勧誘
 - ⑤直売所あびこんに目立つ広告を掲示
 - ⑥町内会の会報に載せる、チラシを作り町内を通じPRをしてもらう
 - ⑦ボラ会員に知人を斡旋してもらう
 - ⑧協議会のHPに魅力ある入会勧誘を載せる

3. 援農ボランティア活動で問題になっている事はありませんか。
 - ①夏の開始時間を農家活動に合わせ、朝5時半とか6時の枠もうけたらどうか
 - ②夏時間の朝は良いですが、午後は通年で良いのでは？
 - ③夏季の作業時間を見直しては、農家と協議を
 - ④トイレの設置をしてもらう、又、トイレの場所を教えて欲しい
 - ⑤農家からボラ活動に新しい提案があっても良いのでは、又、農政課が消極すぎる

4. 受入農家に望む事
 - ①農家は受け入れるだけで、農家からの働きかけが感じられない
 - ②夏場は水分を沢山用意して欲しい
 - ③農家・ボランティア双方とも感謝の心がイマイチ、ありがとうが忘れられている様に思う

5. 援農ボランティア活動の運営について改善すべきところはありませんか。

①情報交換会や懇親会を（芋煮会のように）昼に、畑か市民農園等でやっては？

あるいは、情報交換会は屋内で行い、その後懇親会は軽作業をしながらとか

②個人情報の管理・・・農家には住所、電話の名簿は必要だが、ボランティアに対してはそれらを公開する必要はない

③ボラ登録者のうち、実際の援農活動に不参加の方々に参加の呼びかけを工夫してみては？

又、本人達にアンケートをとったらどうか

④改善というよりも、根本的に協議会としての協議が必要

⑤会員相互の親睦を深める催しものももっと必要と思う

⑥割り振りをもっとスリムに出来るのでは？

⑦日曜は双方とも申し込みが少なく、止めたほうがベター、後の4日は臨時対応の日になれば良い

6. 他部会の活動について何か意見はありませんか。

①学校給食食育推進部会へ） 提案

・地元産野菜の給食をけやきやアピスタの食堂で一般の人でも食べられるようにしたら？

・地元野菜を使ったメニューを、市内のパン屋やカフェ、レストランでもっと出してもらう

・市内の直売所のまつり等を、何かの大きなイベント（鳥博覧会、農業祭りとか）時に同時開催を

・近隣の県や市の取り組みを調査し参考にする（先日の総会の佐倉市和田小の紹介のように）

②実行委員も増え、発展してる姿が素晴らしいです

③活動状況を良く理解していないので、もっとアピールしたらどうか

④活動計画は出ているが、その内容は判らない

⑤協議会の会員は何らかの部会に入り活動をした方が良いのでは 唯、会員を増やすのは意味が無い

⑥ECO 農産物部会の活動をもっとはっきりし、活発に！

⑦質問の趣旨が判らない

⑧他部会は、一般会員が増えたのでその人材に任せる様に協議会で手配すれば、ボラ活動も増加する

○アンケート項目以外に「現行の割り振りを変更する案」がありました(概略)

①農家からボラ希望日(表)を、同じく援農ボラ会員は希望(表)する農家を提出する（1~2 希望まで許容）

ボラ会員は行きたい農家を表に記入、二つまで希望できる(多数の場合は抽選)

②事務局で双方の表から予定表を作成する・・・事務局の割り振り作業が単純化、簡素化できる

③但し、現行同様にどこでも行けるボランティアは今まで通りに申し込む

この案はボランティア部会の委員会で検討中です。

以上

協議会の拡大に伴い、各部会の活動も多様となっており、多くの検討課題を抱える状況にあります。特に販路拡大・食育交流部会は多様で広範囲の活動をしておりますので、会員の方々の積極的なご参加をお願いいたします。

5. イベントの活動状況

1) 第9期援農ボランティア養成講座

9月1日(土)の開講式を皮切りに9月8・15・22・29日10月6・13日の土曜日に6回の研修作業を行い10月20日(土)の閉講式を迎えました。

ことしの新規応募者は4人、援農体験者制度での応募者4人と合わせると9期の方は8人となりました。団塊の世代の終了、土いじりのブームが去った事、放射能の影響など色々な理由があるようですが、例年より大幅に少なくなりました。

真夏のような暑い作業や一時雨にも見舞われた作業もありましたが8人全員が規定の研修作業を無事にこなし、修了証書を受け取る事となりました。

閉講式には4人の方がこの日都合がつかず残り4人のみに修了証書が授与されました。

今年は研修作業に協力して頂いた受入農家の一部入れ替えを行いました。昨年までお願いした、鈴木順一農園、染谷農園、古川農園に代わって加賀農園、田村農園、杉浦農園にお願いしました。他に荒井農園、増田農園、鈴木誠農園にて研修作業をお願いしました。

農政課の方にも開講式及び閉講式の出席、又市役所から受入農家までの送り迎えでお世話になりました。

記 宮本 豊



養成講座授講風景

2) ほうばったおいしい顔・顔・顔

————採って食べよう、食育交流イベント 2012————

今年秋の”採って食べよう、食育交流イベント 2012”は、11月3日(土)文化の日に仲原農園にご協力いただき開催しました。

前日の準備では、風が強くスタッフも心配しましたが、当日は素晴らしい天気にも恵まれ、イベント日和となりました。参加者は幼児も含めて48名で、スタッフ17名合計65名となりました。

参加者が集合したのち農園とスタッフのアドバイスで里芋ほりを行い、作業終了後農園見学と里芋洗いを体験しました。

長靴を履いたちびっこたちは、初めての体験に目を輝かせて汗を流していました。実はちびっこたちだけでなく、若いお父さんお母さんも目を輝かせていました。

作業の後は、スタッフが準備した”芋煮会”です。3つの大鍋と200個以上のおにぎり、漬物は殆どきれいにみなさんのおなかに収まりました。大きなお椀で3倍もお代わりをするお父さん。口いっぱいにはほうばったおいしい顔・顔・顔。自分でお代わりをよそう時の嬉しそうなちびこの顔。

食後は、リズムパッションでさらに盛り上がりました。

スタッフを含めて誰もが満足の顔・顔・顔でした。

仲原農園さん、スタッフのみなさん本当にありがとうございました。



美味しい芋煮です

記：岩井 康

6. 農産物直売所マップ

「あびこん農産物直売所マップ」をホームページに掲載しました！

農産物直売所の所在地を示す、現在のマップは、平成 18 年に作成しましたが、農家の高齢化や情勢の変化などで、閉鎖された直売所もあり、改訂の必要性に迫られましたので、現状にあったマップ・改訂版を作ることとしました。

一番の特徴は、前は紙（印刷）ベースでしたが、今回は、ホームページ（HP）に展開させ、市のHPと当協議会のHPとリンクさせたことです。これによって、24 時間いつでも、どこからでも閲覧でき、より多くの市民・消費者、関係者の皆さんに情報提供が可能となります。また、親しみやすいように、農家さんの顔写真を掲載するなど、ビジュアル面で工夫をしました。

直売所数と農家紹介など掲載情報件数は 80 件（直売所：36 件/あびこん：44 件）で、11 月にアップの予定です。



<我孫子地区>
布施・久寺家・根戸・寿

<天王台地区>
下ヶ戸・岡発戸・

<湖北地区>
中峠・古戸・中里・

中;

・直売所地区別内訳

- 我孫子地区 : 6 件
- 天王台地区 : 4 件
- 湖北地区 : 18 件
- 新木・布佐地区 : 8 件

・個別農家紹介

(09) 鈴木 誠さん



<住所・電話>
〒270-1168 我孫子市根戸589番地 電話 04-7182-7287

<主な生産物>
ネギ、とうもろこし、カブ、枝豆など。葉物、季節物 秋そば、麦

<特徴>
カブは絶賛の人気品です。手間ひまをかけたゴマ作りもしています。農業を減らすように努力しています。

記 白澤幸雄

7. 我孫子市農産物の放射性物質検査について

1. 我孫子市農政課の検査

我孫子市産農産物の放射性物質検査状況 農政課

我孫子市では、国・県が実施する農産物の放射性物質検査に加え、市独自に購入した簡易型放射性物質分析機器で農産物等の検査を徹底して行っています。

平成23年9月～平成24年3月31日までに農産物549検体、平成24年4月1日～9月30日までに農産物631検体の検査を実施しました。

我孫子市産農産物は、原木しいたけ（露地）とタケノコが、国からひきつづき出荷制限の指示を受けていますが、その他はすべて国の定める基準値未満であり、そのほとんどが検出限界値未満となっています。また、8月末に県が実施した「平成24年我孫子市産米」の検査では、市内13地点のお米全てが「検出せず」の結果で、安全性が確認されました。

今後、柑橘類などの重点品目の検査も、他の農産物とともに実施し、消費者及び農家の皆さんの不安を払拭していきます。検査結果は、引き続き市ホームページ・広報で公表していきますのでご確認ください。

販売されている我孫子市産の農産物は、安心して購入していただけます。

これまで以上に「地産地消の輪」を広げていただくようお願いいたします。

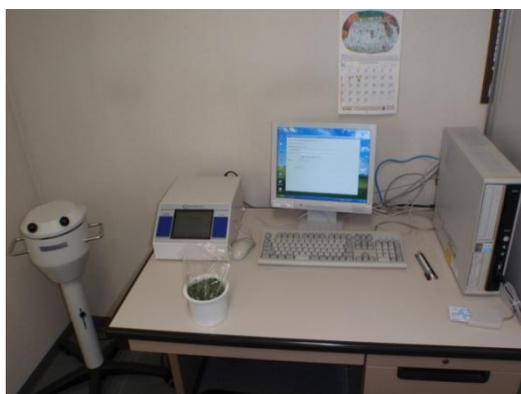
農地の除染実施計画と空間放射線量の測定について 農政課

我孫子市では、放射性物質除染実施計画（期間：平成23年4月から平成26年3月）を策定し、一時間当たり0.23マイクロシーベルトを超える場所を除染することとしています。

農地の除染については、平成24年度から平成25年度にかけて空間放射線量を詳細に測定し、その測定結果の確認後に除染の方針を決定することとしています。

平成24年5月～9月にかけて12地点の農地の空間放射線量の測定を実施しましたが、現在のところ一時間当たり0.23マイクロシーベルトを超える農地はありません。

今後も、農家の意向をもとに農地の空間放射線量の測定を進め、市内農地の安全性の確認を行っていきます。



農政課の簡易型放射性物質分析器写真



農地の空間放射線量測定作業風景写真

2. 千葉県ホームページより抜粋（平成24年9月14日）

千葉県24年産米の放射性物質検査報告・・・千葉県農林水産部安全農業推進課

本日の検査をもって、県内の52市町村284地点での検査が終了し、全て基準値以下であることが確認されたことから、県内で米を生産している全市町村で24年産米の出荷・販売ができるようになりました。米の出荷・販売が可能な市町村（9月14日現在 52市町村のうち52市町村）

【基準値】 一般食品 放射性セシウム : 100 ベクレル/ kg

【分析方法】ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法 以下略

我孫子市 13か所 8月29日（米10報）

採取場所 中峠村下・下沼田-2・上沼田-3・北新田（旧我孫子町）、高野山新田-2
北新田（旧富勢村）-3・相島

採取日 8月27日

放射性セシウム ・セシウム134・・・全検体検出せず ・セシウム137・・・全検体検出せず

8. イベントの予定

月 日	内 容	部 会
11月~3月	学校給食支援（仕分・搬送）	学校給食支援部会
12月中旬	援農通信発行	援農ボランティア部会
12月1日（土）・2日（日）	市民フェスタ出展（アピスタ）	広報部会
12月8日（土）	情報交換会・忘年会（市民プラザ）	援農ボランティア部会
1月19日（土）	ちびっ子餅つき大会（あびこん）	地産地消推進協議会
2月 9日（土）	味噌作り教室（あびこん）	販路拡大・食育交流部会
2月16日（土）・17日（日）	消費生活展出展（市民プラザ）	広報部会
3月中旬	協議会会報発行	広報部会

9. 編集後記

この夏は雨が少なく、9月になりやっと雨量と呼ばれるほどの降雨があった。農業を行う者にとっては秋の種蒔き、苗の移植と待っていた農作業ができる事になりましたが、その後の雨は千葉県・我孫子市全地域に降るのではなく又長時間降り続けることも無く30分1時間で降り止む雨が多い9月前半でした。

放射性物質検査では我孫子市は一部農産物が出荷制限を受けているが、他の農産物に関しては11月7日現在では問題は無いとみている又今年度は千葉県で行った米作に対する放射性物質検査でも早々に我孫子市内の「米」は出荷・販売共に可能に成った事を含め県・市共に当問題に関しては積極的に行動している事を感じられました。

今回の「会報30号」は援農ボランティア部会が行ったボランティアアンケート結果等記事が多く通常より2ページ増え10ページと成りました。ボランティアアンケートは今後の「地産地消協議会」を考えさせられるアンケート内容では無いでしょうか。

記 若王子